

ひみこちゃんが 「大和さくらい100選」 一度は行ってみたいスポットを紹介 - その38 -

吉備池廃寺って何？

吉備池は、桜井市吉備にあり、江戸時代にため池として造成され、現在も農業用として利用されています。1997年、この吉備池を発掘調査したところ、7世紀中頃（飛鳥時代）に建立されたと考えられる巨大な寺院跡が見つかりました。この寺院跡が飛鳥時代の寺院の中でも、ずばぬけて大きい建物跡であったことから、最古の国家寺院「百済大寺」跡ではないかと考えられていました。翌年には、この建物跡の真西から巨大な塔の跡もみつき、百済大寺の象徴的存在とされる九重塔ではないかと考えられ、「百済大寺」跡の可能性がぐっと強まりました。このことは、当時の報道各紙を賑わせ、一面トップでも報じられました。

調査後は、この寺院跡に吉備の地名を用い、吉備池廃寺と呼ぶようになり、歴史ファンの想像をかきたてています。

ももつた いわれ
百伝ふ 磐余の池に 鳴く鴨を

けう
今日のみ見てや 雲隠りなむ

《現代語訳》

（大津皇子、死を賜った時に、磐余の池の堤で涙を流して作られた歌一首）

磐余の池に鳴いている鴨を今日だけ見て、私はこの世と別れてしまうのか

《解説》

謀反の疑いをかけられ、磐余池近くの詔語田宮（現在の大字戒重）で死を賜った大津皇子が、生前に、鴨の姿を見て、鳴き声を聞くという視覚、聴覚で生きていることを実感するのも、もう終わりかと嘆いた歌といわれています。

今回は、桜井のとおきをおきを選んだ「大和さくらい100選」に選ばれている記紀万葉ゆかりの地「吉備池廃寺」を紹介するよ！



もし、吉備池廃寺が百済大寺だったら、今は、謎だらけの百済宮が、この周辺にあったと考えられるんだって！つまり、7世紀中頃には、磐余（現在の大字吉備や阿部など周辺）の一角が、政治・文化の中心地になっていたということになるんだよ！

百済大寺って何？

一説によると、聖徳太子が病床にあったとき、田村皇子（後の舒明天皇）に熊凝道場（聖徳太子が平群郡熊凝村に創立した寺）を大寺にしてほしいという願いを託しました。田村皇子が天皇即位後の舒明11年（639年）には新宮と大寺の造営着手を命令しました。この大寺に当たるのが百済大寺です。これが、最初の大官大寺※です。

百済大寺には、高さ100メートルを越えるとされる九重塔に加え、封戸（官僚に与えられる家）300戸もあり、大規模な寺として造営されました。舒明期に造られて以後、次の大官大寺である高市大寺に移される天武2年（673年）までの34年間、歴代の天皇により崇拝されていました。

※「大寺」とは私寺に対して官寺という意味と、文字通り大きい寺という意味があります。「官寺」とは天皇が建立し朝廷によって経営される国立寺院のことです。そして、大官大寺は、「官寺」の中でも際立って寺格が高い大寺ということで、「寺の中の寺」とも言えます。



吉備池には他にも万葉歌碑があるから、見に行つてね！



「ひみこちゃんのページ」

<http://www.city.sakurai.lg.jp/himiko/index.html>

観光まちづくり課（☎ 42 - 9111 内線 342）

twitter@himiko_chan